

名古屋大学 リーディング大学院推進機構

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 理学部C館3階 317号室 TEL: 052-789-5265 E-mail: oplgs@adm.nagoya-u.ac.jp URL: http://www.leading.nagoya-u.ac.jp/

■グリーン自然科学国際教育研究プログラム

キャリアパス・国際支援室(理学研究科・生命農学研究科)
〒464-8602 名古屋市千種区不老町 理農館3階 SA337号室
TEL: 052-789-2954
E-mail: IGER@bio.nagoya-u.ac.jp
URL: http://iger.bio.nagoya-u.ac.jp/
キャリアパス・国際支援室(工学研究科)
〒464-8603 名古屋市千種区不老町 工学部1号館2階(I系事務室)208号室
TEL: 052-789-2731
E-mail: IGER@bio.nagoya-u.ac.jp
URL: http://iger.bio.nagoya-u.ac.jp/

■法制度設計・国際的移転専門家養成プログラム

法学研究科 リーディング大学院事務室
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 法経共用館 131プロジェクト室
TEL: 052-789-2324
E-mail: leading@law.nagoya-u.ac.jp
URL: http://www.law.nagoya-u.ac.jp/leading/

■PhDプロフェッショナル登龍門

PhD登龍門推進室
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 理学部C館3階 319号室
TEL: 052-789-3595
E-mail: 10ryumon01@adm.nagoya-u.ac.jp
URL: http://www.phdproleading.nagoya-u.ac.jp/

■フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム

理学研究科 フロンティア宇宙事務室
〒464-8602 名古屋市千種区不老町 理学部C館3階 315号室
TEL: 052-789-2930
E-mail: office@frontier.phys.nagoya-u.ac.jp
URL: http://www.frontier.phys.nagoya-u.ac.jp/

■実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム

情報科学研究科 リーディング大学院事務室
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 情報科学研究科 リーディング大学院事務室
TEL: 052-789-3171
E-mail: office@rwdc.is.nagoya-u.ac.jp
URL: http://www.rwdc.is.nagoya-u.ac.jp/

■「ウェルビーイングinアジア」実現のための女性リーダー育成プログラム

ウェルビーイング事務室
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 生命農学研究科 ウェルビーイング事務室
TEL: 052-788-6246
E-mail: well-being@well-being.leading.nagoya-u.ac.jp
URL: https://www.well-being.leading.nagoya-u.ac.jp/

Access



■東山キャンパス |
地下鉄名城線名古屋大学駅下車すぐ
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
■文学研究科 ■国際開発研究科
■教育発達科学研究科 ■多元数理科学研究科
■法学研究科 ■国際言語文化研究科
■経済学研究科 ■環境学研究科
■理学研究科 ■情報科学研究科
■工学研究科 ■創薬科学研究科
■生命農学研究科

■鶴舞キャンパス |
JR中央本線鶴舞駅、地下鉄鶴舞線鶴舞駅下車 徒歩5分
〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
■医学系研究科(医学)

■大幸キャンパス |
地下鉄名城線ナゴヤドーム前矢田駅下車 徒歩5分
〒461-8673 名古屋市東区大幸南1の120
■医学系研究科(保健学)


名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY
2015年9月発行

 名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

博士課程教育 リーディング プログラム



勇気ある知識人を理念に 次世代をリードする 博士人材を育成



社会環境が世界規模で変動する昨今。経済の低迷や環境問題など、人類は数多くの難問に直面しています。こうした状況下、地球規模の課題を解決に導き、次代の扉を開く優秀な人材は不可欠です。しかし残念ながら、高度な専門性を有する博士人材は活躍の場が限られ、せっかくの研究や知識が埋もれてしまっているのが現実です。これはわが国にとって、知的損失にほかなりません。

文部科学省が支援する博士課程教育リーディングプログラムは、博士人材の育成強化を目指す事業です。高度な専門性を究めながらも広く国際社会を俯瞰し、産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーの養成を目的としています。

名古屋大学が学術憲章に掲げる「勇気ある知識人」もまた、専門性が高く、広く社会や人類に貢献する志をもち、コミュニケーション力や俯瞰力を備えた教養豊かな人材です。まさに文部科学省の事業とコンセプトは同じであり、今後も教育力と研究力の両面をさらに強化し、博士人材の育成に務めてまいります。現在本学は「グリーン自然科学国際教育研究プログラム」「法制度設計・国際的制度移植の専門家養成プログラム」「PhDプロフェッショナル登龍門」「フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム」「実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム」「“ウェルビーイングinアジア”実現のための女性リーダー育成プログラム」と6つのプログラムが採択され、環境への貢献、法分野の国際協力、社会で活躍するリーダーの育成、宇宙科学の発展、情報社会への寄与、男女共同参画社会の実現と、多様な分野で活躍するグローバルリーダーを育成しています。これら6つのリーディングプログラムを一層充実させるため、リーディング大学院推進機構を設け、博士人材育成強化という共通の理念のもと、分野を横断した多彩なカリキュラムを展開しています。こうした活動は実り、ようやく博士人材の受け入れの地盤はできつつあります。とはいえ私どもは立ち止まることなく挑戦を続け、知の拠点としての期待に応え、さらには人類社会に貢献したいと考えています。

名古屋大学総長 松尾 清一

Mission&Vision

未来の扉を開く、プラットフォーム

新しい大学院教育のカタチ

情報が一瞬にして地球上を駆け巡り、ボーダレス化が進む国際社会。価値観が多様化し、激変する現代社会の未来を拓くのは、俯瞰力や企画立案力、実践能力等を兼ね備えたグローバルリーダーです。文部科学省が実施する博士課程教育リーディングプログラムは、こうした時代の要請に応えた新しい大学院教育を推進する事業です。従来の博士課程教育と並行し、画期的なカリキュラムを体系化。国内外の第一線級の教員を結集し、産学官が連携して、質の高い学位プログラムを実践しています。名古屋大学では現在6つのプログラムが採択されており、それぞれの特長を生かした教育を展開しています。確固たる基礎力に加え、高い専門性に立脚した俯瞰力を備えた博士人材を育成します。



志が育つ場所

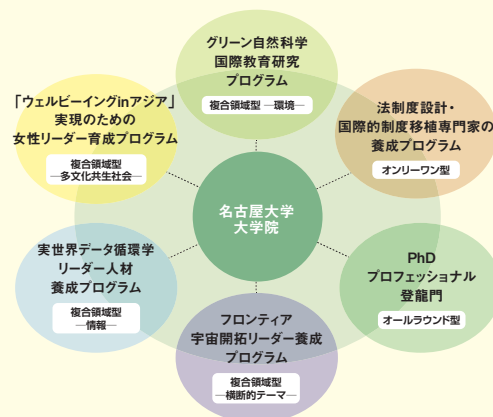
名古屋大学リーディング大学院推進機構

リーディングプログラムの3つの類型

オールラウンド型
国内外の政財官学界で活躍し、グローバル社会を牽引するリーダーを育成する文理統合型のプログラム

複合領域型
人類が直面する課題解決に向けて、産学官等のプロジェクトを統括し、イノベーションを牽引するリーダーを養成する複合領域を横断したプログラム

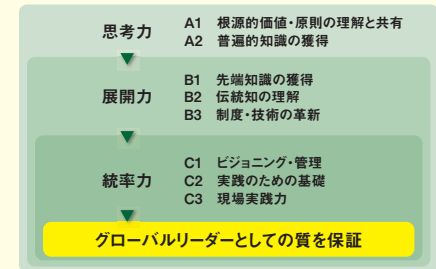
オンリーワン型
世界的に独自の優れた資源を活かし、新たな分野を拓くリーダーを養成するプログラム



学際的アプローチによる次世代リーダーを育成

グローバルリーダーを養成する体系的な教育

専門分野の枠を超え、博士課程前期・後期一貫したプログラムを展開し、従来の大学院とは一線を画した学際的なカリキュラムを構築しています。6つのプログラムを横断する「統合カリキュラム」は、異分野を融合した独自の取り組みです。思考力から展開力、統率力へと段階的・体系的に実施することにより、グローバルリーダーに必須の力を身に付けます。6つのプログラム間で共通科目や開講科目を設け、現代が抱える諸課題やその展望など、広く国際社会を俯瞰する能力を養成します。



世界へ視野を広げる、実践的なカリキュラム

国内外の研修・フィールドワーク

講義や研究指導では獲得できない実践的な知識や能力を養うために、研究インターンシップや海外研修、海外滞在研究など多彩な研修を設け、世界へ視野を広げます。特に海外研修は、多様な価値観を実感する大切な機会。慣れない環境のもと切磋琢磨することで、国際コミュニケーション能力やグローバルな視点での問題発見、その解決能力を養成します。



モンゴル・ウランバートル近郊の河川で水質調査

フリビシ・バヤタスごみ処分場周辺に暮らす子どもたちとの交流

思い描く理想の実現を支援

多様な領域を網羅するネットワーク

ノーベル賞受賞者や産業界のトップリーダーを多数輩出した名古屋大学がもつ産学官のネットワークを駆使し、学生の高い志や理想の実現を支援する体制を構築しています。



益川敏英・名古屋大学特別教授と講義

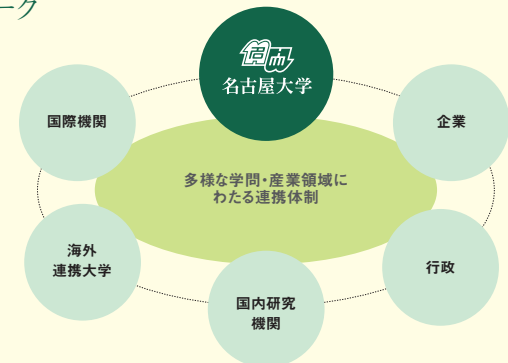


Table Talk

名古屋大学から
新しい時代のリーダーを
グローバルな教育環境が
ここに用意されている

名古屋大学はリーディング大学院推進機構を中心に、6つのリーディングプログラムを展開しています。各プログラムでは自らの夢や志を実現するために、学生たちが研究やインターンシップに打ち込んでいます。

今回は、チャレンジ精神豊かな6つのリーディングプログラムの各学生が集まり、実践的で充実した環境や学生生活を大いに語り合います。

異分野で学ぶ学生たちがこの場で交流することも、貴重な経験です。さらなる横断的な発想や連携が生まれることを、期待しています。

名古屋大学副総長
リーディング大学院推進機構長
前島正義



新しい大学院教育を推進する 個性豊かなプログラム

前島: 博士課程教育リーディングプログラムは、東日本大震災が日本に大きな爪あとを残した2011年からスタートして、今年で5年目になります。日本の大学院は、長い歴史の中で、大学教員の養成機関と位置付けられていて、博士号を取得しても就職のチャンスが少なく、飯の種にならないという意味で「足の裏についた米粒」だと揶揄されたものです。しかしそれは日本だけの話ではなく、世界中どこでもそのような現状があります。例えばフランスでは、大学院を出ても、海外留学しないとフランスの大学の教員になることはできません。韓国でも、ほとんどの方はアメリカやヨーロッパで学んで、そこで成果を上げないと戻ってこれない。このような大学院の状況を何とか変えたい、そのためには教育システムそのものを何とかしなければいけないと、文部科学省はリーディングプログラムを提唱しました。本学では6つのプログラムが採択され、個性豊かな新しい大学院教育が始まりました。今日は、各リーディングプログラムから1名ずつ参加していただき、学ぶ側の現状や成果、将来への思いなどを聞いてみたいと思っています。

私たちが応募した理由

長江: 応募した理由は「面白そうだったから」。もともと博士後期課程に進学する予定でしたが、ただ半導体の研究だけ続けるのではなく、さらに広がりをもちたいと思っていました。そうした中で、学生募集説明会でリーディングプログラムのことを知り、自分も参加したいと思いました。

知識だけではなく、実践力だけでなく
地球社会を視野に
俯瞰力を兼ね備えた
グローバルリーダーを目指す

花岡: 研究室の研究テーマが赤外線天文学で、次世代の人工衛星に搭載することを目指して、観測装置の開発を進めているうちに、もっと人工衛星について深く学びたくてプログラムに応募しました。私は英語が苦手だったので、英語教育が盛んなリーディングプログラムでも少しでも英語の力を付けたいと思いました。

佐藤: リーディングプログラムに入る前からアジア経済に興味がありました。PhDプロフェッショナル登龍門は、フロンティア・アジアを対象地域とするプログラムです。発展著しいアジアで海外研修ができることも魅力でした。

辻: 名古屋大学を卒業してから、看護師として働いていましたが、現場にいれられないほど、指導的立場としてもっと知識がほしい、と感じるようになり、大学院に入学しました。「ウェルビーイングinアジア」実現のための女性リーダー育成プログラムがあることを知ったのは入学後です。日本だけではなく他国の医療の問題についても興味湧き、例えばアジアの医療現場で、自分の仕事はどうしたら役に立つのか、ほかの国では地域医療がどうなっているかなど、もっと視野を広く深く学びたいと思いました。

仲澤: 大学院入試の時に初めてこの大学に来たのですが、国際交流が盛んで、海外での学会発表やキャリアパスなど積極的に支援を行ってくださるところに惹かれて志願しました。

Nandasiri: スリランカのコロボ大学を卒業し、ロースクールで弁護士資格を取った時に日本に留学することになりました。母国スリランカでは2009年まで内戦状態で、その後ようやく発展に目を向けることができました。日本も敗戦からの奇跡的な復興と、同じような経験をもつ国です。その発展の歴史を学ぶことによって、スリランカでもそれを生かすことができるのではないかと考え、日本で勉強することになりました。



グリーン自然科学
国際教育研究プログラム
仲澤 一輝さん
(神奈川県出身)
理学研究科
物質理学専攻



法制度設計・国際的制度
移植専門家の養成プログラム
(スリランカ出身)
法学研究科
総合法政専攻



PhDプロフェッショナル
登龍門
佐藤 嘉晃さん
(愛知県出身)
経済学研究科
社会経済システム専攻



フロンティア宇宙開拓
リーダー養成プログラム
花岡 美咲さん
(和歌山県出身)
理学研究科
素粒子宇宙物理学専攻



実世界データ循環学
リーダー人材養成プログラム
長江 祐樹さん
(愛知県出身)
工学研究科
結晶材料工学専攻



「ウェルビーイングinアジア」
実現のための
女性リーダー育成プログラム
辻 晶代さん
(三重県出身)
医学系研究科 看護学専攻



多彩な経験が可能性を広げ 将来へのビジョンを育てる

前島: リーディングプログラムのカリキュラムは多彩で、勉強漬け、研修漬けの日々を過ごしていると思います。そんなプログラムの中で、皆さんは何を得て、どのように変わりましたか。

佐藤: リーディングプログラムで良かったことは、自分に自信がついたこと。海外研修でラオスとカンボジアとタイに行き、今まで学んできたことが意外と身に付いていて、自分の専門性を具体的に発信できたことが自信になりました。と同時に、先生方からのフィードバックがしっかりあったのが大きかったですね。

前島: リーディングプログラムの目標のひとつでもある、自分の専門性を具体的な社会の中に伝える、具体的な行動を企画できる、ということを大学院生活で実感したということは、素晴らしい成果のひとつですね。

花岡: 海外研修の資金を援助してもらって、海外でひとり生活しながら研究する経験など、リーディングプログラムに入れたからこそ、得られた経験が多いですね。これからは、片っ端から挑戦していこうと思っています。今、私たちのプログラムでは、チームで人工衛星を企画していますが、どんな人工衛星をどのように作っていくのか、ゼロから作り上げる経験が積めることが、とても楽しいです。

Nandasiri: 私はこの夏、イギリスのケンブリッジの研究者と交流する予定ですが、これはリーディングプログラムだからこそできることであって、大変ありがたく思っています。

前島: それぞれのプログラムに参加してきて、印象に残ったことはありますか。

仲澤: 学会のため海外研修でアメリカに行かせていただき、オール(口頭)で発表できる機会をもらったことです。日本での

国際会議では、僕みたいな学生はみんなポスター発表です。発表は8分、質疑応答は4分とその限られた時間内でロジカルに要旨をまとめ、質疑にも応答するという経験は、英語力アップに役立ちました。質疑応答用に準備していた原稿は、実際は役に立ちませんでした。すべてを英語で考え、そして瞬時に英語で正確に伝える、という経験は大きいと感じました。

辻: ベトナムでの海外研修では4研究科の学生がチームとなり、お互いの研究科の様々なジャンルを学び、その中でウェルビーイングについて考えていきました。現地の病院に行ったり、女性リーダーを訪問したり、農地を視察したりしましたが、同じところを見て、学んできたものの違いによって感じるものや疑問をもつ視点が、全然違っていた。このプログラムに参加してなければ、農学の現場を知ることもしませんでした。農学が私の専門とする健康増進の分野と深く関わっていると強く感じましたが、それを将来どう発展させるかが課題です。

前島: 保健は国民の健康的な生活の基盤となるので、多角的なアプローチが大切ですね。

Nandasiri: 法律の分野だけ、科学の分野だけが発達していくのでは足りません。いろいろな分野が一緒になっていくことで、より良い社会を作れるのではないのでしょうか。

自分らしい未来のリーダー像を描き 人生という花を大きく咲かせてほしい

Nandasiri: 日本とスリランカの間の国際関係を良くするために働きたいと思っています。スリランカはイギリスの植民地時代があり、法制度もヨーロッパの影響を受けています。日本も明治時代にドイツやイギリスの法制度を学び、近代化を成し遂げました。このように多様性に満ちた法制度を勉強することは、とても面白いですね。日本だけでなくアジアを中心にいろいろな国での経験をよりよく学び、志の高い強いリーダーになりたいと考えています。スリランカと日本との友好関係は60年以上。リーディングプログラムが成功して、日本人も留学生も一緒に勉強や研究を続けられる環境をぜひとも整えてほしいと思っています。

長江: 今後、情報技術は一層進展し、2020年にはデータ量が20倍以上になると予測されています。その膨大なデータを分析し活用することで、社会全体の利益になるような日本発の技術開発を目指したいと思っています。

辻: まず今の目標は、国際機関でのインターンシップを目指して、英語のスキルアップをしていきたいです。また、プログラムに参加している留学生の話や、働く女性に対する周囲からのサポートが日本より整っている国がたくさんあります。そんな国を参考にしながら、どうしたら家庭と仕事をうまく両立して自分のキャリアを重ねられるかを考え、自分ができることを高めながら進んでいきたい。

健康問題に興味があるのでWHOやUNFPAなど国際機関で活躍できたらいいですね。国際機関で働きたいという発想は、このプログラムに入らなければ、生まれませんでした。

仲澤: 私は、サイエンスコミュニケーションに興味があります。サイエンスコミュニケーションには、研究した内容を人に分かりやすく説明する能力が求められます。実際に人に説明するのは難しいですが、社会に還元して理解してもらうことを目指したいと思っています。日本のみならず、世界の子どもたちに科学は面白い、ということを研究成果の発信を通じて伝えていきたいですね。

花岡: 将来、人の夢を叶えるようなものを作る開発に携わりたいです。人工衛星とは、宇宙の神秘を解明するため、また人の役に立つために打ち上げるもの。それを開発できたらという思いがリーディングプログラムに入ったきっかけでもありますが、研究室でも衛星の目となる遠赤外線センサーを開発することを目標に、夢と気概をもって生きていきたいと思っています。

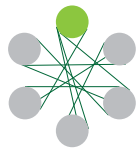
佐藤: このリーディングプログラムを経済学的に考えると、これだけ大きな援助を得て、これだけ多くの学生が学んでいるのですから、そこで頓挫することは考えられない。社会的責任を考えると、どんなに小さくても、研究成果をアウトプットしなければならないという使命感があります。タイに研修に行った時、国連の経済調査を担っている組織を見学して、その仕事にも興味を湧きましたし、大学に残って研究を続けるにしても、世の中に対してプラスに働こうにしたいと思っています。

前島: いいですね。皆さんの意見を聞いて、一番うれしかったのは、10年先、20年先を見つめる希望に満ちた未来志向です。将来を見据え、今はできなくても、そこで果敢に活躍したいと思っている。それがすごくありがたいと思っていますし、リーディングプログラムのひとつの成果だと考えています。

リーディングプログラムは、ある意味選ばれた学生に対して、国からの援助はもちろん、指導する先生方の思いや学生自身の努力を投入して育んでいくプログラムですが、こうでなくてはいけないという形は作っていません。それぞれに皆さんが、自分にいいと思うことを取り入れて、個性豊かなリーダーになってくれたらと願っています。

リーダーとは、単に社長や研究所長といった役職の話ではありません。人間には右手と左手がありますが、オーケストラでいえば、右手はタクトをもって指揮し、左手で表情をつけたりします。つまり、右手と左手で楽団の演奏をまとめて上げる役割もっています。ごはんを食べるにも、左手がないと難しいですね。リーダーシップも同じように、タクトを振る右手のリーダーもいれば、組織を支える左手のリーダーもいると思います。リーディングプログラムに在籍している間にいろいろなリーダー像を描いて自分がフィットする形を見つけ、人生という花を大きく咲かせてほしいと思います。





グリーン自然科学国際教育研究プログラム

CONCEPT

直面する環境やエネルギー問題を 恒久的に解決し 持続可能な社会の発展へ

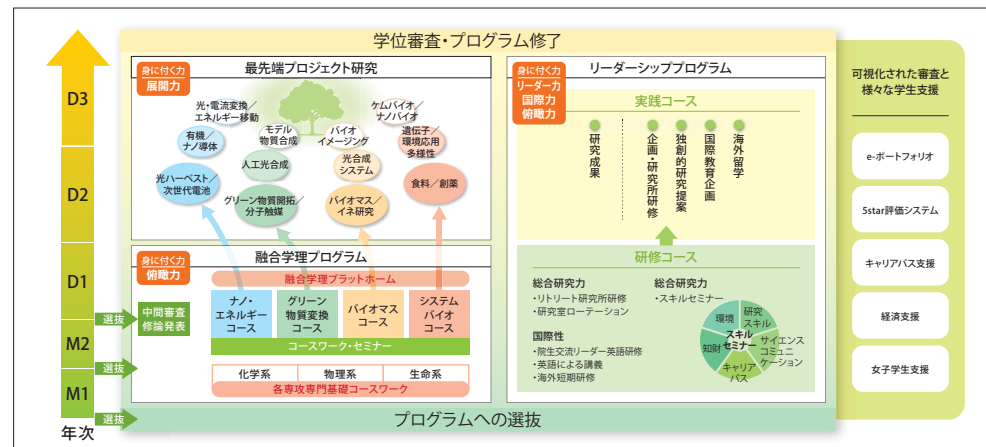
プログラムコーディネーター
理学研究科 教授
阿波賀 邦夫

エネルギーや環境問題などの難問が山積する
昨今、化石燃料や原子力エネルギーへの過剰
依存からの脱却を目指し、持続可能な社会の発展
を実現することは、現代科学に課せられた重要
な課題です。こうした諸課題を多角的に捉え、解決
しうる人材の育成も急務の課題です。

東日本大震災が発生した2011年の初冬に誕生し
た本プログラムはグリーン自然科学の発展に基づく、
環境やエネルギー問題の恒久的な解決を目指し
ています。悠久に続く太陽エネルギーを起点とする
自然界の物質やエネルギー変換あるいは循環
のメカニズムを探究し、この学術成果を物質創製
やシステム生命科学へと応用することによって、
安定した物質・エネルギー・食料生産を生み出す
科学技術を追究します。博士人材としての学位
論文や研究レベルの向上を図りながらも、リテラ
シー教育や国際化教育を実践することで、「全体
を見渡す科学力と社会性」「基礎研究から応用
成果を引き出す展開力」「地球規模で活躍する
国際性」を涵養します。理学・工学・生命農学を
横断した本プログラムでは、多くの学生が切磋
琢磨し、互いに能力を高め合っており、想像以上
のスピードで、素晴らしい共鳴が起きています。
本プログラムでは学生の自主性を尊重し、学生に
は自律的な科目履修を求めています。海外留学
やインターンシップ、院生企画、各種セミナーなど、
豊富に用意されたメニューは、自ら考え、厳格な
修了要件を満たすべく計画的に履修しなければ
なりません。この厳しくも自由な環境が、学生の
自主性や競争社会を生き抜く能力を鍛えます。
本プログラムの理念は、グリーン自然科学の発展
を先導する勇気と才覚をもった人材を育成する
ことです。ここから羽ばたく人材は、次世代の環境
分野を担うリーダー人材として、持続可能な社会
の発展に貢献すると信じています。



高度な専門性と多様性をキーワードにカリキュラムを展開



切磋琢磨できる環境によって、リーダー人材へと着実に成長

本プログラムは、できるだけ多くの学生が参加することで、お互いに切磋琢磨しながら、トップレベルの能力を伸ばしていくことを特徴として
います。理学・工学・生命農学研究科の8専攻が協力したコースワークや、学内の各部署の協力による各種セミナー、英語研修やノース
カロライナでのリーダーシップ研修などにおいて、分野や学年の異なる学生と協力、あるいは競争できる環境があります。研究成果だけでなく、
プログラムで取り組んだ成果を可視化することで、学生同士刺激し合い、切磋琢磨の好循環が生まれています。また、それらを社会に発信
することで、キャリアパスに役立ちます。こうした取り組みにより、優秀な人材が着実に成長を遂げています。



ノースカロライナリーダーシップ研修



女性トップリーダーによる女子学生へのリーダー育成支援

女性の活躍推進は、今や社会的に取り組むべき重要なテーマです。その動向に先駆けるように、本プログラムでは創設から一貫して、
本学および海外連携大学のトップ女性科学者を中心とした特別チームを結成し、女子学生のための女性科学者育成を行っています。
そのひとつとして、特別チームによる、女子学生のみが参加可能な「女性トップリーダー育成オフサイトミーティング」を毎年実施しています。
「なぜ女性リーダーが少ないのか」を議論の皮切りに、女性リーダーのロールモデルを明示しながら、参加者一人ひとりが将来へのビジョン
やキャリアを考える場を提供しています。

女性トップリーダー育成オフサイトミーティング

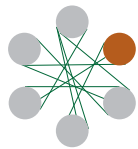
DATA

- [複合領域型一環型] 2011年採択
- [応募資格のある学生の所属研究科・専攻]
(理学研究科)物質理学専攻、生命理学専攻 / (工学研究科)化学・生物工学専攻、
物質制御工学専攻、結晶材料工学専攻 / (生命農学研究科)生命技術科学専攻、
応用分子生命科学専攻、生物機構・機能科学専攻
- [連携・協力機関等] 6機関
自然科学研究機構・分子科学研究所 / 自然科学研究機構・基礎生物学研究所 /
理学研究科 / 産業技術総合研究所 / 豊田中央研究所 / 豊田理化学研究所

COLUMN

院生企画セミナー

新しい研究分野を切り拓くためのチュートリアルセミナー、複数の分野の境界領域を
開拓するためのワークショップ、大学の垣根を超えた学生による学生のための次世代
へ向けた提案等、教育企画力育成を目的とした院生企画セミナーを実施していま
す。プログラム担当教員による審査を経て採択された企画は、教員に頼ることなく、
学生自身で実施しなければなりません。企画の実施を通じて、リーダーシップ、チーム
ビルディング、交渉力、問題解決力や実践力など様々な能力を身に付けます。



法制度設計・国際的制度移植専門家の養成プログラム

CONCEPT

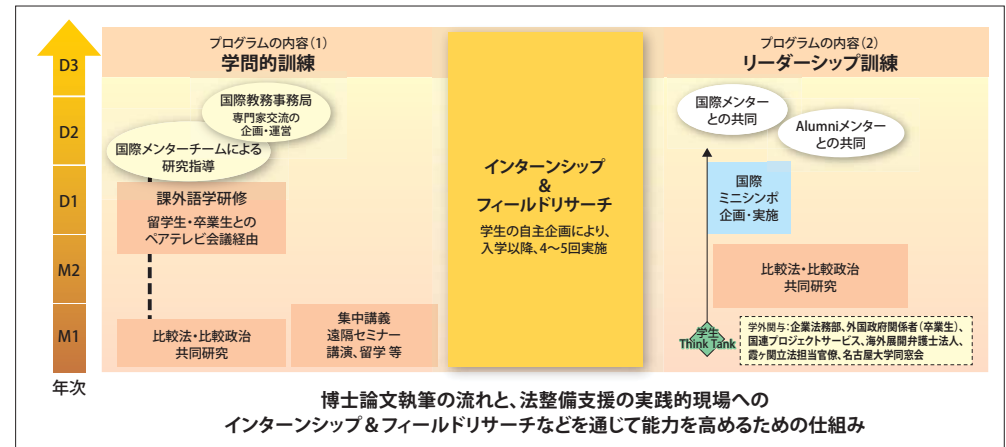
国境を超えて 魅力ある制度を構想・設計できる リーダーを育成

プログラムコーディネーター
法学研究科 特任教授
松浦 好治

冷戦終結後の市場経済拡大に伴い、日本政府はODAの一環としてアジア諸国の法整備支援を開始しました。その中心的な役割を担っていたのが名古屋大学の法学研究科です。ベトナムでの民事・商事法の起草支援を皮切りに、法分野の国際協力活動を展開。これら体制移行国から多くの留学生の受け入れを通じて、新しい法制度を支える人材を育成してきました。本プログラムはこうした長年にわたる実績を背景にスタート。将来の法整備支援事業を担う人材育成を目標とする、日本初の博士課程教育プログラムであり、全体を通じてほぼ唯一の社会科学系の取り組みになります。エンジニアリングや科学が快適な社会の構築を目指しているように、法学の理念もまた快適な社会の実現に寄与することです。例えば今、同性婚が課題になっていますが、彼らがどんな状況下になり、世間からどのように受け取られ、どのように保護したら快適な社会が生まれるのか。その現場を理解してこそ、魅力ある制度の構想・設計を実現することができます。このように法学分野をリードする人材に求められるのは、現場を理解する力です。また、発展途上国が世界銀行などからどのような援助を受け、どんな制約や条件があるのか、現実の外交や政治の世界を見据える見識も必要です。こうした能力を養成するために、本プログラムでは海外インターンシップやフィールドリサーチを重視。国内外の連携機関の協力のもと、学生一人ひとりの研究テーマに基づき、世界をフィールドとしたインターンシップを展開しています。また、法律家や専門家による国際チームで共同研究することで、耐働力や実践力、統率力を育成します。目指す人材像は、起業家。すなわち、リーガルマインドをベースに新しい業を起こす人。20年後にはプログラム修了生たちは世界各地でユニークな活動を展開していることでしょう。優秀な人材をアジアへ、世界へ輩出し、快適な社会の実現を願ってやみません。



将来の法整備支援事業を担う人材育成を目指す独自のプログラム



世界をフィールドにインターンシップ 国際的な人脈を育てリーダーシップを獲得

法制度設計を担うリーダーを育成するために、柱となっているのが、アジア諸国や世界各地で展開するインターンシップとフィールドリサーチです。その特長は、学生による自主企画。テーマの設定から研修先へのコンタクト、交渉まで一貫して行うことで実践力を身に付け、国際的な人脈を育てることも目的としています。基本的に研修は一人で行いますが、最初は失敗の連続。しかしその経験を2度、3度と積み上げることで、国際社会で必要となる交渉力や技能を体得します。こうした研修も名古屋大学の連携機関があればこそ。移民にまつわる法制度の構想・設計や漁業の乱獲など、学生はそれぞれの研究テーマを胸に研修に赴き、その厳しさを乗り越えることで、自らの志を実現しようとしています。



フィリピンでのフィールドリサーチ



国際シンポジウムでの共同報告

国際チームでグループワーク 多文化の中で運営マネジメント能力を育成

社会改革や法改革は、法律家だけでは実現できません。歴史や宗教、政治などの専門家が協議を繰り返すことで、有効な着想や法律が生まれます。次代を拓くグローバルリーダーにはこうした国際チームを統率し、運営する能力が必要です。そのため、本プログラムでもグループワークを実践。日本人学生や母国の違う留学生で国際チームを編成し、テーマに応じた専門家を招き、共同研究を行います。多文化の学生によるグループワークでは、時に意見が対立することも。その対立を収め、統一の見解をまとめることも、リーダーには必要な素養。共同研究を通して、プロジェクトの運営や共同研究を支える理論、立案遂行の能力を体得します。その成果は学生自身が企画する国際シンポジウムで発表し、プレゼンテーション能力も育成します。

DATA

【オンライン方式】2011年採択

【応募資格】

博士課程(前期課程)

大学で法学または政治学を専攻した者
および修了見込みの者

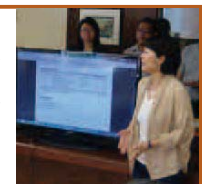
博士課程(後期課程)

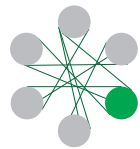
博士前期課程で法学または政治学を専攻し
修了した者および修了見込みの者

COLUMN

独自の英語プログラムをアジア展開へ

国際機関での折衝や意見を主張するためには、卓越した英語コミュニケーション能力が求められます。入学要件は米国のフルプライムプログラムの応募資格同等以上の英語力ですが、さらなる英語力向上のための講義はすべて「英語」とし、十分な議論ができる英語能力を日常的に鍛えます。英文アカデミックライティングについても徹底的に指導。こうした独自の英語プログラムを全学展開することで、大学全体の英語力を強化。今後のアジア戦略の一翼を担いたいと考えています。





PhDプロフェッショナル登龍門

—フロンティア・アジアの地平に立つリーダーの養成

CONCEPT

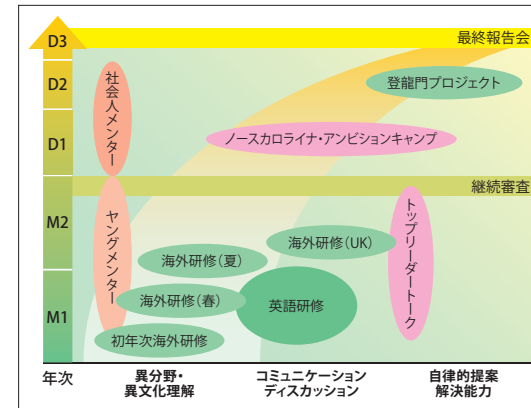
次世代の成長戦略を描き 国際的なビジネス展開と国際連携を支える グローバルリーダーを育成

プログラムコーディネーター
理学研究科 教授
杉山 直

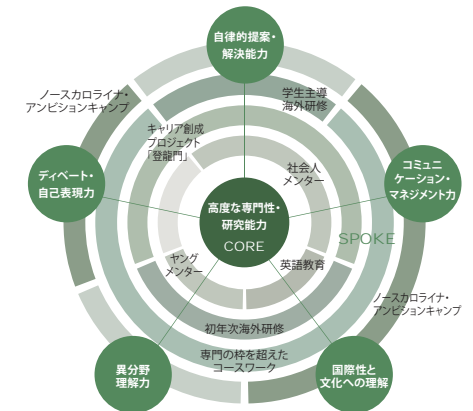
世界経済を牽引するポテンシャルを秘めたアジア諸国と連携しながら、日本の製造業再生という次世代の成長戦略を描き、実現することのできるグローバルリーダーの育成は急務です。本プログラムの狙いは、広い視野と実行力を兼ね備えた国際的リーダーの育成です。アカデミアの枠を超え、実践的で画期的なプログラムで身に付けた問題解決能力を国際社会で柔軟に適應できる、真のプロフェッショナルを育成します。本プログラムが国際的な問題解決を実践する自主研修の場として設定するのは、主に、名古屋大学が研究拠点を築いてきた、モンゴル、ベトナム、カンボジアなどの国々です。急速な経済成長の中にある、これらフロンティア・アジア諸国の現実を知り、活力を肌で感じることは、経済の低迷による閉塞感の中で育った学生にとっては貴重な経験となるでしょう。異分野・異文化の人々と協調し問題解決に向かう格好の訓練となるだけでなく、発展やチャンスへの意欲にふれ、自らの殻を破る契機にもなります。また日常生活において、日本人学生が留学生とシェアハウスで生活を共にして、異分野・異文化間のコミュニケーションを実践できるように配慮しています。本プログラムでは、産学官各界のトップリーダーを招いてのディスカッションや、社会人メンターの協力による国際的なビジネス展開の学びなど、実践能力を獲得するための充実したコースワークも用意しています。これらの総仕上げとして、学生自身の提案に基づく自律的な問題発見・課題想定・解決へのプロセスを実践する「登龍門プロジェクト」を実施し、社会のあらゆる場面の問題解決に向かう博士人材および国際的なビジネス展開と国際連携を支えるグローバルリーダーを送り出します。



異文化理解から問題解決能力の修得へ
段階的に展開



高度な専門性と
その活用能力の融合



コア・スポークモデルで「PhDプロフェッショナル」を育成

本プログラムでは、所属研究科で修得する高度な専門性を「コア」、国際的・実践的な環境で「コア」を活用する力を「スポーク」と位置付けます。「スポーク」は、自律的提案・解決能力、コミュニケーション・マネジメント力、国際性と文化への理解、異分野理解力、ディベート・自己表現力の5分野。ノーベル賞受賞者・産業界・メディア・司法・政治など各界トップリーダーとのディスカッションや、英国発のトランスファーラブル・スキルズ・トレーニングをはじめとする多彩なカリキュラムを展開してこれらの能力の高いレベルでの獲得を目指します。また総仕上げとして、学生自身の提案に基づいて自律的な問題発見・課題想定・解決までのプロセスを実践させる「キャリア創成プロジェクト「登龍門」」を実施し、博士号をもちながら社会の各分野においてリーダーとして活躍する職業人「PhDプロフェッショナル」を育成します。



橋本孝之・日本IBM副会長によるトップライダートーク



ノースカロライナ・アンビションキャンプ

海外研修や語学教育で国際的な発信力を涵養

国際舞台でリーダーシップをとるには、英語によるコミュニケーション力・異文化理解力・発信力が欠かせません。本プログラムでは、プロティッシュ・カウンシルと連携した語学教育を提供し、文化的側面への理解も含めた高度な英語力を養成します。国際情勢講座や日本文化体験講座などを通して、自他の相違を理解する文化的理解力を養うとともに、博士前期課程中に、フロンティア・アジア諸国および英国を舞台にした海外研修への3度の参加を義務付け、さらに、博士後期課程には米国ノースカロライナ州の本学の拠点を活用して「アンビションキャンプ」を実施し、起業家精神や国際的環境における企業社会のあり方について実践的に学びます。

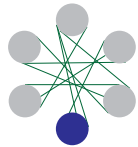
DATA

- 【オールラウンド型】2012年採択
- 【応募資格のある学生の所属研究科・専攻】
(全研究科)全専攻
(但し、法学研究科実務法曹養成専攻を除く)
- 【連携・協力企業等】12機関
東海テレビ放送/トヨタ自動車/中部電力/
中日新聞社/デンソー/日本ガイシ/
大垣共立銀行/東海メディカルプロダクツ/
日本アイ・ビー・エム/愛知県/名古屋市/
中部経済産業局

COLUMN

第一線で活躍するメンターの指導のもと 将来へのビジョンを描く

メンターによる指導も大きな特長のひとつ。視野の拡大や意識改革・行動変容につながります。博士前期課程では、学生とは異なる専門分野の若手教員を「ヤングメンター」とし、異分野の研究への理解を促します。博士後期課程では、企業や官公庁等の協力のもと「社会人メンター」を異なる機関から招聘して、第一線で活躍する方ならではの体験を直に伝えます。メンターのアドバイスは、将来へのビジョンやキャリアプランの構築にも役立ちます。



フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム

一産学官連携と理工横断による次世代産業創出を目指して

CONCEPT

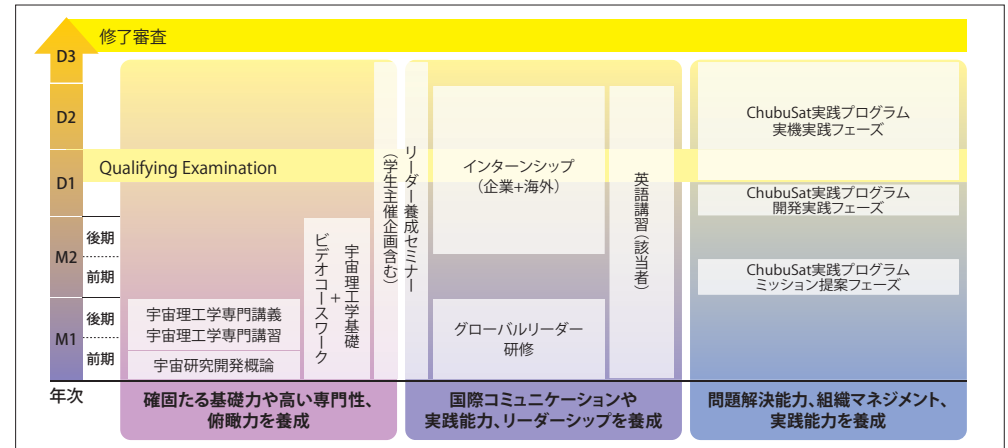
新しい創造の翼を広げ 人類最後のフロンティア 「宇宙」を切り拓く国際的リーダーへ

プログラムコーディネーター
宇宙地球環境研究所 教授
田島 宏康

人類に残された最後のフロンティア。そして、さらなる進歩の鍵を握る、宇宙。現在社会にはすでに環境・物質・情報・安心安全等に関連する多様な宇宙インフラが浸透し、通信・放送衛星、GPSを筆頭に、幅広い産業に技術利用が広がっています。また、過酷な宇宙環境への挑戦は技術開発を促し、新たな産業のイノベーション生む源泉として無限の可能性を秘めています。宇宙の開拓・利用は国の発展においても重要な課題で、世界各国が注力しており、特に欧米諸国では民間企業による利用が進んでいます。一方、日本では官に偏りがちで、最先端の知見や技術が十分に活用されていません。複合的分野の宇宙開拓・利用には、理学・工学の多様な要素を有機的に組み合わせることが必要であり、高度な専門性と広い知識をもち、グローバルな舞台で活躍できるリーダーが強く求められています。そうした状況下、本プログラムは宇宙開拓および民需による宇宙利用の拡大という2大テーマに取り組みます。宇宙産業の中核を担う中部地区にある本学の長を生かして、「宇宙」を軸に最先端の知見や技術を俯瞰的な視野で統合し、産業界をも牽引する国際的リーダーを輩出。そのネットワークを通じ、生活の向上に貢献する宇宙利用の拡大をはじめ、製造業発展への寄与、次世代産業の創出につなげることを目指しています。理工横断の広い知識と経験、プロジェクトを率いる力をもったリーダーを養成するために特に重視するのは、経験を通じた成長です。例えば「ChubuSat実践プログラム」では、自分たちで運営し、失敗も乗り越えながら問題を解決していく過程が確実な成長をもたらしています。インターンシップでは、実践的な体験が能力を伸ばし、さらに博士人材の有用の実感を企業の方々にご理解いただく貴重な機会となっています。ますます広がっていく宇宙利用の可能性。ここから送り出していくフロンティアスピリットあふれる人材が、その明日を切り拓く大きな力になります。



宇宙開拓リーダーに必要な素養・専門性と実践を重視した教育体系



ChubuSat一人工衛星利用・機器開発実践プログラム

中部産業界と連携し、具体的な産学官連携プロジェクトを展開しています。本学が主導する産学協同の超小型衛星プロジェクト、ChubuSat衛星を活用したプログラムでは、衛星搭載機器の開発を、提案、シミュレーション・設計、製作、環境試験、搭載準備、運用、データ解析等、最初から最後まで一貫して体験します。その方法は、決められた手順で実験をこなすのではなく、異なる分野に所属する5-9名の学生がチームを組んで、切磋琢磨・失敗しながらプロジェクトを遂行するというもの。分野を超えた交流の中で、「企画立案能力」「組織マネジメント能力」「問題解決能力」等、宇宙関連産業に限らず、広く産業の発展をリードするのに役立つ能力を養成します。



振動実験装置



企業インターンシップ事前見学会にて
担当者より概要説明を受ける

インターンシップで大学の枠を超えた体験

学外での多様な経験を通してリーダーに必要な能力を養うため、「国内企業」「海外企業」「海外研究機関」から1つ以上のインターンシップ研修を必須としています。企業インターンシップでは、実践的環境を体験することで、実践能力や問題解決能力を身に付けるとともにキャリアパスにつなげます。航空宇宙関連のほか一般企業、マスコミまで受け入れ企業の分野は幅広く、企業が求める人材について実感し、また、博士人材の価値を企業の皆さんに実感していただく貴重な機会になっています。海外研究機関インターンシップでは、グローバルな研究環境を体験することで、国際コミュニケーション能力等を身に付けます。なお、海外インターンシップは学生自ら立案して実施します。

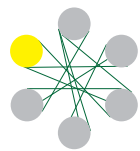
DATA

- 【複合領域型一横断的テーマ】2012年採択
- 【応募資格のある学生の所属研究科・専攻】
〈全研究科〉全専攻
- 【国内外連携・協力大学等】8大学
オックスフォード大学 / オハイオ州立大学 / カリフォルニア大学バークレー校 /
コロラド大学 / ノール大学 / ミシガン大学 / ミシガン州立大学 / レスター大学
- 【連携・協力企業等】海外企業1、国内企業5
三菱重工業・航空宇宙事業本部 / 三菱電機・先端技術総合研究所 / NEC・
宇宙システム事業部 / ボーイング / トヨタ自動車 / 浜松トニクス

COLUMN

自主性と実践を重視したリーダー養成

学生が自分に合ったリーダー像を描き、生きた知識を獲得する機会として、各界リーダーの体験談を基にした討論会や、国際的なリーダーに必要な知識をインタラクティブな講習で身に付けるグローバルリーダー研修を実施します。さらに、討論会のテーマ・資料の準備や教員との意見交換会の主催・企画等を学生が担うことで、リーダーに必要なものを深く考え、実践する機会を提供。学生が主催する活動を教員が常にモニターすることで、学生のリーダーとしての能力や活動への貢献度等から、成績だけでは測れない到達度も評価します。



「ウェルビーイングinアジア」実現のための 女性リーダー育成プログラム

CONCEPT

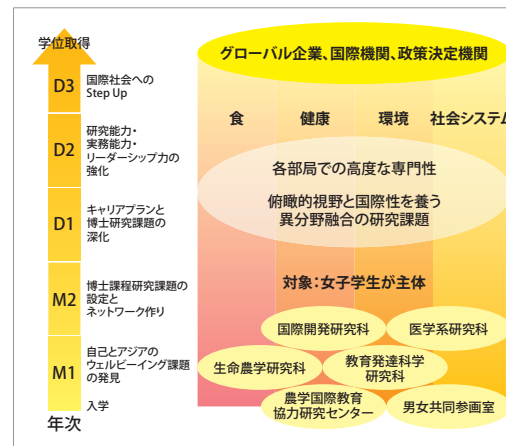
強い使命感と確かなビジョンを備えた 女性リーダーを育成

プログラムコーディネーター
生命農学研究科 教授
東村 博子

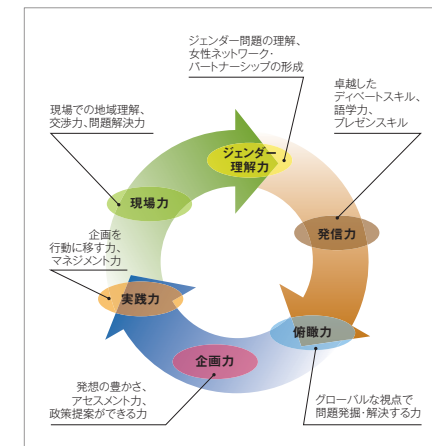
人類が目指す持続可能な社会の発展、その鍵となるのは「女性の活躍」です。様々な発展段階にある多文化共生社会アジアには、貧困や多様な健康問題、ジェンダー格差など、課題が山積しています。とりわけ女性が伝統的に貢献してきた食・健康・環境といった分野の共通課題を解決するためには、民族や国籍、宗教を超えた女性同士によるネットワークの構築とパートナーシップの確立・深化が必要です。そこで動き出したのが、このプログラム。アジアが抱える課題に深く関わる「食・健康・環境・社会システムと教育」をキーワードに、確固たる専門性と俯瞰力、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感、ビジョンを兼ね備える、グローバルに活躍できる女性リーダーを育成します。そして目指すのは、ウェルビーイング（個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること）の実現です。プログラムの大きな特長は、国際開発・教育・医学・農学の4研究科の分野を超えた5年一貫教育により、縦割りの大学院教育では不可能な「統合知」を獲得し、「6つのコア能力」を習得すること。様々な領域がからみあう課題に立ち向かい、解決へ導く資質をじっくり育てます。現在、多国籍な学生がともに学び、平和につながる国境を超えた友情を育んでいます。また、女性リーダーの活躍には男性の理解が不可欠であることから、男子学生も参加。こうした恵まれた環境のもと、学生たちはリーダーとして活躍する自信と自覚を着実に身に付け、実践の中で英語力も上達しています。2015年、名古屋大学は、国連女性機関「UN WOMEN」の男女共同参画推進キャンペーン事業において世界の10大学の1つに選ばれましたが、これも本プログラムをはじめとした長年にわたる女性力推進を目指した活動が評価された証といえます。近い未来、ここから巣立つ卒業生たちが、政策決定機関や国際機関、企業などのグローバルリーダーとなって、日本とアジア、世界を変える日がきっとやって来ます。



統合知を獲得する 5年一貫の学位プログラム



世界で活躍するための 6つのコア能力を養成



国際機関等との連携による実践教育と、組織的な支援体制

国際社会が抱える問題を解決に導くために、できるだけ早いうちに異文化を体験し、異分野融合の研究課題に対する俯瞰的な視野と国際性を養うことが重要です。そのため、英語による講義・演習を実施するとともに、アジアを中心とする学術交流協定校・連携大学、そして、国連児童基金 (UNICEF)、国連人口基金 (UNFPA)、国際協力機構 (JICA) をはじめとする国際機関・国際協力機関およびグローバル企業などと連携し、実践的な教育を行います。また、4研究科合同の綿密な指導体制に加え、本学の実績あるメンター制度によって、在学生はもちろん修了後に至るまで継続的なサポートを実施します。



元内閣府男女共同参画局長、名取はは先生による講義
国際比較の中で、日本の女性参画の現状を語る



海外実地研修における病院の視察

学際性を育てる海外実地研修

アジアをフィールドとする海外実地研修では、地域がもつ問題や、ウェルビーイングが達成されない理由を見抜く力や素養を鍛えます。また、自らの目で見て体験し、感じることで、自分たちのできること、すべきことは何かを考え、それを実行するモチベーションを高めます。具体的には、ベトナムやインドネシア、フィリピン等に一定期間滞在し、母子保健医療や宗教、災害等のテーマに即したりサーチを行います。そこでは、専門分野や国籍が異なる学生たちがチームを編成。それぞれが高度な専門性に立脚しながら、異分野融合の研究課題に対する学際性を自らの内部に育てることで、グローバルな視点で問題を発見し、解決する能力を身に付けます。

DATA

- [複合領域型—多文化共生社会—] 2013年採択
- [応募資格のある学生の所属研究科・専攻]
- 〈国際開発研究科〉全専攻 / 〈教育発達科学研究科〉全専攻 / 〈生命農学研究科〉全専攻 / 〈医学系研究科〉全専攻
- 〔国内外連携・協力大学等〕 15大学
フィリピン大学 / ルンド大学 / カンボジア王立農業大学 / ディボネゴロ大学 / チュラロンコン大学 / カンボジア王立ブロンベン大学 / ガジャマダ大学 / シンガポール国立大学 / ラオス国立大学 / フィリピン大学ロスバニョス / ベトナム国家大学ハノイ / インド工科大学ボンベイ校 / ダッカ大学 / オタワ大学 / 国連大学高等研究所
- [連携・協力企業等] 6機関
外務省 / JICA (国際協力機構) / UNICEF (国連児童基金) / UNFPA (国連人口基金) / 世界銀行 / ADB (アジア開発銀行)

COLUMN

キャリアパスを具体的に構想し、 実現する力を体得

グローバルリーダーに必要な力を養成するワークショップでは、UNICEF、UNFPA、FAO、JICA等、国際機関で実際に活躍中のリーダーを講師に招き、ウェルビーイングの課題を討議し、国際社会で活躍するためのスキルやキャリア開発戦略も示されます。講義終了後は、キャリアカウンセリングが実施され、講師の直接的な指導のもと、学生自らが将来のビジョンやキャリアパスについて考え、それを実現するための力を鍛える機会となっています。